



2023年 11月 16日発行 会報第1169号

今週のプログラム

(2023年 11月 16日 第1169回例会)

卓話：米山奨学事業について

担当：地区米山奨学委員会
委員長 魚谷 健司様

次回のプログラム

(2023年 11月 30日 第1170回例会)

卓話：「死んだ後 登記しないと10万円？」

担当：松田 親男会員

第1168回例会 (2023年 11月9日) の記録

「会長の時間」

藤田 芳浩 会長

本日は、関西大学 国際部のご協力で「留学生との交歓会」を開催いたします。留学生の皆様ようこそおいでいただきました。何かのご縁で今日お会いすることが出来ました。この機会がなければお互いに時間を共有することはなかったと思いますので、貴重な時間になると思います。どうかお楽しみください。後ほどスピーチ宜しくお願い致します。

さて、先程皆様と例会の最初に歌をうたいました。毎回 例会参加者全員で歌をうたいます。この歌の選曲はいつもお世話になっている事務局ご担当の近藤様にお任せしています。本日の例会は、海外から来られました留学生の皆様なので「ふるさと (故郷)」を選曲されその歌詞を皆様が読みやすいようにひらがなで掲示板に書かれました。非常にタイムリーな選曲だと思います。

1番の歌詞は「兔追いし かの山 小鮒釣りし かの川 夢は今も廻りて 忘れがたき故郷」皆様 故郷を思い浮かべられたのでは… 2番は「如何にいます父母 恙なしや友がき 雨に風につけても 思いいいずる故郷」きつとご両親・ご友人の顔が浮かんだのでは… そして3番は「志を果たして いつの日にか帰らん 山は青き故郷 水は清き故郷」となります。まさに皆様の希望に燃えた今の気持ちを代弁していると感じました。本当に心にしみる良い歌だと思います。

先日も申しあげましたように2008年から15年間約70数名の留学生の方々と食事を共にしながらお互いの交流を深めてきました。非常に意義ある時間であるとともに互いに刺激しあう貴重な時間だと思います。今後も継続していきたいと思うと同時に今まで何かのご縁で交流させていただいた皆様と改めてお会いしたいと思います。どのような方法で実現できるか模索中です。

進展が有りましたらご報告いたします。

本日の例会をご担当の木下 健治会員 今日には宜しくお願い致します。

<本日のお客様>関西大学より 国際部 教授 国際教育センター長 山本 英一様
劉 泓子(リュウ ヒロコ)様 楊 拡(ヨウ カク)様 王 怡静(ワン イージン)様
ヤンセン ラマプテラ様
2023 学年度 米山奨学生 グエン キム フン様

<出席報告> 高尾 修 SAA 補助
会員数 (内出席免除会員 1 名) 19 名
本日の出席者数 7 名
(内出席免除会員 0 名 名誉会員 0 名)
本日の出席率 38.89%

<ロータリーソング> 全会員
♪ふるさと♪
<本日のピアノ曲> 近藤 美里さん
1. Somewhere Out There
2. When I Wish Upon A Star
3. A Whole New World
4. You Raise Me Up

<今月のお誕生日>柳原健治会員 15 日 <ロータリー財団表彰>第 1 回 PHF 山本友亮会員



<SAA 報告>

高尾 修 SAA 補助

※スマイルボックス

相原会員 留学生の皆様を歓迎して。

※ロータリー財団

高尾会員 山本 英一様 ようこそ！

※米山記念奨学会

高尾会員 留学生の皆様 ようこそ！

水島会員 阪神タイガース 日本一おめでとう！！

藤田会員 グエンさん 今日もお話し楽しみです。(^^)

柳原会員 釣りに行けません。こまった！

※メイプル基金

山本(友)会員 皆さま、いらっしゃいませ。どうぞごゆっくり。

柳原会員 9 月決算で忙しいです。

藤田会員 関西大学 国際部の皆様 山本英一様

本日宜しくお願ひします！！

《留学生との交歓会》 担当 木下 健治 国際交流委員長

*** 関西大学 山本 英一先生よりご挨拶**

皆様こんばんは。ついこの間、お目にかかったばかりですが、本日は学生と共に招き頂きありがとうございます。本日は、私も選考に関わっております奨学生選抜の多くの優秀な学生の中から、特に優秀な4名の学生に参加してもらいました。

先ほど「ふるさと」の唄を歌いながら、私の故郷 岡山の田畑の風景や、すでに亡くなっている両親を思い出し、少し涙しました。私自身が志を果たしているのかわかりませんが本当にいい唄だと思います。留学生達にも、お招き頂いて皆様とお食事をしながら、お話をさせて頂いて、関西 大阪 千里を第二の「ふるさと」と思ってもらえるのだらうと思います。先ほど伺いましたら 2008 年からこういう機会を頂いているという事ですので、改めまして御礼申し上げたいと思います。本日はどうぞよろしくお願い致します。

■□■□■5分間スピーチ テーマ『ロータリークラブに期待する事』■□■□■

関西大学 会計研究科 1年 劉 泓子 (中華人民共和国)

みなさん、こんばんは。劉 泓子と申します。現在は関西大学 会計専門職大学院 修士1年生です。まずは簡単な自己紹介をさせていただきます。私の名前は「ひろこ」というのですが、ハーフなのか?と良く聞かれます。生まれも育ちも上海の純度 100%の中国人です。ではなぜ「ひろこ」という日本人に多い名前なのか?と言いますと、実は私の父が大の日本好きで、若い頃自分自身が日本に留学したかったが叶わなかったと聞いています。そのため娘の名前に、元々決めていた漢字に「子」をつけたそうです。父の叶わなかった日本留学の夢を娘の私が受け継いで、中国の大学で日本語を専攻し、卒業後に来日しました。

次に大学院での専攻をご紹介します。今は会計学を専門としていますが、日本公認会計士を目指しています。今年の5月に1次試験に合格し、8月に2次試験を受けて、現在は最終結果の発表待ちです。学業の傍ら、京都府の名誉友好大使としても活動を行っています。この友好大使というのは、京都府の選考を受け、京都府知事に任命されたもので、国際友好の架け橋となる活動をメインに行っています。私が主に担当しているのは、京都府の小中学校に、社会科の特別講師として、母国の文化を紹介し、親睦を深める活動です。

ではスピーチの本題に戻ります。今回のスピーチのテーマである「ロータリークラブに期待することは何ですか?」の私の答えは、日本および世界の次世代の心に、友好の種を蒔くことです。米山梅吉さんが奨学会を創設されたのは、日本および世界平和のために、世界中の留学生を迎え入れ、信頼関係を築いた後に、母国と日本の架け橋になってもらう、という願いを持っていたそうです。実に素晴らしい願いだと思い尊敬しています。その尊い思いを受け継ぐために、小中学生などの次世代の心に早い段階で友好の種を蒔くことが重要な課題だと思います。私は、京都府友好大使としての活動の中でそれを体感しました。毎回講義の後、子どもたちは本当に打ち解けてくれ、上海のことを興味津々に聞いてくれます。帰る時に学校の校門まで見送りに来てくれます。子供の無垢な心に癒されながら、私と出会ったことで中国や諸外国に対する友好の種が、いつか彼らの心の中に芽生え花咲く日が来ると信じています。貴財団の公式サイトを拝見させていただいたところ、貴財団の活動として、高校生と異文化交流が行われている事を知りました。私もそのような友好活動に尽力していきたいと思います。

以上となります。ご清聴ありがとうございました。

関西大学 東アジア研究科 1年 王 怡静 (中華人民共和国)

貴財団は国際的な奉仕活動団体であり、奨学生が貴財団を通して日本の文化や習慣などに触れることで、社会参加と社会貢献の意識を高めることができます。私は将来、貴財団の理想とする国際平和の創造と維持に貢献したいです。また、貴財団の活動は世界各国の留学生との言語、文化、習慣などに関する交流と相互理解を重視されています。年齢、宗教や性別などを問わず、「人のために生きる」という目標が掲げられ、真心をもって奉仕の精神を発信されています。

私が貴財団に期待することは、円滑なコミュニケーション能力と奉仕精神が学べる場であることです。例えば、私の研究は「近世日本における儒教儀礼受容」という日中文化の交流に関する研究です。より良い研究成果を挙げるためには、学会で自身のコミュニケーション能力を生かし、各国の研究者たちと交流することが重要です。また、貴財団の奉仕精神を学びたいです。私は留学期間中に家族や友人、先生などから受けた恩義に対してどのように恩返しするかを常に考えています。そのため、ロータリアンの方々の奉仕精神を学び、自身の力を尽くして恩義に報いたいと思っています。もし、貴財団の活動に参加できれば、貴財団の方々と積極的に交流をし、さまざまな事を学びたいです。異文化交流や相互理解の体験を通じて、日常生活や研究活動に必ず役立てることができ、貴財団の奉仕の精神も身につくと思っています。

将来、私は中国に戻って大学教師として働くことを考えています。研究と教育を両立させ、自らが日本で学んだ知識をより多くの学生たちに伝えたいと切に願っています。そこで、貴財団で学んだことや身につけた知識を活かし、地元の学生たちに日本の習俗や文化などを紹介することで、真の日本をより深く理解させる機会を提供したいです。日中文化交流の懸け橋になることができれば、それ以上にうれしいことはないと考えています。

関西大学 経済学部 3年 楊 拡 (中華人民共和国)

ロータリークラブの皆様、こんにちは。

私は関西大学経済学部 3 回生の楊拡と申します。

今日は、「ロータリークラブに期待すること」についてスピーチをさせていただきます。

私が貴財団に一番期待することは日本の外国人児童生徒への教育支援に関する奉仕活動です。その理由としては、「1 回生の時に経験したボランティア活動を通じて、日本の外国人児童生徒の教育不足問題に関心がある」からです。

私は大学 1 回生の時に、ボランティア活動として **success-Osaka future design 2021** というプログラムに参加しました。私はチームリーダーとして、日本の外国人児童生徒教育不足という社会問題を解決するため、チームの皆さんと一緒に、いろいろなチャレンジを行いました。まず、日本の外国籍児童生徒の教育現状の調査を行いました。文部科学省によると、公立学校における日本語支援が必要な児童生徒の数は 10 年間で 1.4 倍に増加しました。

しかし、このような増加に対して、母語指導者や日本語指導者の雇用のある公共団体数は全体の 3 割しかなく、支援者不足が年々顕著になっています。

その原因として、指導が必要な外国人児童の言語が多様化しており、居住地も散在化しているからであると思われます。外国籍児童生徒の母語は 18 言語以上もあり、また、指導が必要な学校にも生徒の数が少ないため、彼らに対する全般的な日本語指導が難しい状況です。

この問題に対して、私たちは実際に子供達に母語や日本語指導も実施し、この支援活動が持続可能になるように、クラウドファンディングを立ち上げました。

その結果として、ご支援頂いた人数は 30 人に上り、募資金額は 29 万円に達しました。

このご支援のおかげで教員人数が 8 人増え、生徒数も最初の 3 人から 10 人に至り、支援を行っている地域も拡大することができました。

また、私たちは母語や日本語指導だけでなく、教科支援も行いました。さらに、子供達の保護者から「自信がついてきているようです。」というメールを頂いたり、「日本人のクラスメイトに数学の問題を教えることができました。日本語もうまくなり、皆との話題が増えてきた。」と教科支援を受けている中学生から聞いたりすることで、私自身も子供の成長をサポートすることができ、非常にやりがいを感じています。

私達だけでは、日本の外国人児童生徒教育不足問題を解決することが非常に難しいと思います。

そこで、私は貴財団に日本の外国人児童生徒への教育支援に関する奉仕活動を期待しています。私のスピーチは以上となります。ご清聴ありがとうございました。

関西大学 環境都市工学科 3 年 ヤンセン ラマプテラ (インドネシア)

ロータリークラブの皆様、こんばんは。関西大学・環境都市工学部・建築学科・3 回生のヤンセンラマプテラと申します。インドネシアからの留学生です。

まず、本日こちらの例会に参加させていただき、皆様の前でお話しする機会をいただきましたこと、心から感謝申し上げます。

本日は、「ロータリークラブに期待すること」というテーマでお話ししたいと思います。私が貴財団の一員になれた場合、積極的にボランティアや例会に参加して、社会への貢献と同時に、自らの視野とつながりを広げていきたいと考えています。

冒頭で自己紹介しましたように、私は建築学科の学生で、現在は特に都市計画に関することを勉強しております。将来的にはデベロッパーに就職し、国際的な都市開発を通じて現代都市における多様な課題を解決していきたいです。そして、母国インドネシアと日本の懸け橋となり、さらには他の国々との繋がりも深めていきたいと考えています。

この思いと貴財団が提供するボランティア活動やプロジェクトは深くかかわりを持っています。貴財団の活動を通じて、地域の課題やニーズを理解し、支援活動を展開していくことで、都市の発展や課題解決への具体的な取り組みを知り、経験を積むことができます。

また、例会や交流イベントで、異なる文化や価値観をもつ方々との交流を通じて、より広い視点を持つことができると感じています。10年後、20年後になっても貴財団の活動に関わり続け、国際的な交流や協力の場として持ち続けることができれば幸いです。

長くなりましたが、このように、私は貴財団との深い関わりを通じて、いろいろなことを経験し、いろいろな人と関わっていきたいです。これらのことを心から楽しみにしております。

では、以上で私のスピーチを終わります。ご静聴いただき、ありがとうございました。

大阪成蹊大学 経営学部 4年 2023 学年度米山奨学生 グエン キム フン (ベトナム)

2022年のオリエンテーションに初めて参加した日、私の心の中にはこうした期待が湧き上がりました。ここで、私はより多くの人々とコミュニケーションが取れる快適な空間を見つけることを期待していました。私は心地よい空間で楽しい話をできる場所を夢想していました。

それよりもっと期待していたのは、共感し、アイデア、夢、そして知識を分かち合う友人や出会いがあるコミュニティを見つけることでした。私は同じ情熱を持ち、社会に奉仕する活動に積極的に参加する人々と出会えることを期待していました。

実際に、ロータリーに足を踏み入れた後、私が体験したことは最初の期待を上回りました。初めて千里メイプルロータリークラブの例会に参加した日、正直に言って私の気持ちは少し恐れていました。その日、多くの「偉い人」に出会いました。名刺が目にとまったのは、ロータリアンが社長、副社長、大学の先生、そして病院の院長など優れた人々ばかりでした。例会を終わった後、カウンセラーが私にスピーチを依頼し、頭が真っ白になり、言葉をまともに話せない状態になると、緊張しました。それは今でも思い出すと、非常に恥ずかしい経験でした。しかし、それらの困難からこそ、私は自己を向上させ、成長する強力な動機を見つけました。

言ってしまうと、この1年半の経験は私の最初の期待を遥かに超えています。友達リストは日に日に増え続け、Rotaryに参加することで出会った意義深い関係が、私の人生を豊かで意味のある物にしてくれました。今、私がRotaryを卒業するのはわずか4か月先に迫っています。私の唯一の期待は、本質的にRotaryクラブとの強い結びつきを維持できることです。日本にいううちに、Rotaryの活動に続けて参加できることを望んでいます。



劉 泓子様



王 怡静様



グエンキムフン様



楊 拡様



ヤンセン ラマプテラ様





藤田 芳浩会長



山本 英一先生



木下 健治 国際交流委員長



*** 藤田会長より ご参加頂きました関西大学留学生の皆様・山本先生・グエン様への御礼**

皆様と素晴らしい時間を一緒に出来たことを本当に感謝申し上げます。それぞれ様々な環境で育たれ様々な経験をされ様々なお気持ちをお持ちという事がよくわかりました。ただ共通していることは、将来への確固とした志と希望をお持ちだということです。これからさらに成長されて是非実現して頂きたいと心から応援致します。今日の機会がなかったならば何処かですれ違ったとしても全く分からなかったのですが、これからは、またお会いする機会も有ると思いますので、宜しくお願い致します。是非 クリスマス例会にもご参加ください。